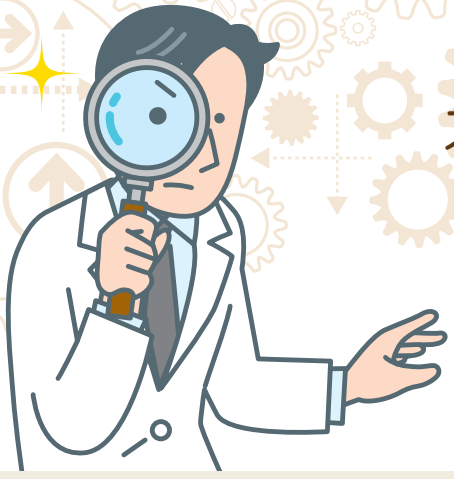

犬と猫の慢性腎臓病

～このミステリーに富むモンスターに
どう立ち向かうのか？～

宮本　賢治
エンジェル動物病院 院長・日本小動物血液透析協会 会長

第3回：慢性腎臓病（CKD）の第1期の分類と細分類

はじめに

第1回（2023年5月号）と第２回（2023年7月号）では、我々が日常的に使用している慢性腎臓病（CKD）と言う病名について、①犬猫に対する詳細な定義はなく、②定義のない状態の中でIRIS※)は、KDIOGO※)の推奨するヒトの定義の一部（腎傷害の安定した3カ月以上の持続）を犬猫に適用して犬猫用のガイドラインを作成し、③GFRより測定しやすいという理由だけで腎機能評価の能力が劣る血中クレアチニン（Cr）そしてまた対称性ジメチルアルギニン（SDMA）を用い、CKDを診断および病期分類している。その上で、④IRISとISFM※)の両者は最初に理に適ってCKDを診断し、その後で病期分類を行うことを強調していることを学んだ。

第３回ではCKD診断後の病期分類とその細分類の概念を簡単に述べ、ついでCKDの第1期の分類と細分類について考察する。その前に、CKDの分類に先立つ診断法の重要性を再度確認するために、専門医が実施してきたCKD診断方法を紹介し、さらに我々獣医師がCKDの診断の際に、その診断基準であるCr濃度、USG、およびUPCをどの程度実際に測定しているかを調べてみる。

※略語一覧
IRIS（International Renal Interest Society）世界獣医腎臓病研究グループ
KDIGO（Kidney Disease: Improving Global Outcome）
世界腎臓病予後改善構想
ISFM（International Society of Feline Medicine）国際猫学会

問題1：獣医腎臓病専門医はCKDをどのように定義しているか？

犬猫のCKDの様々な側面を研究している専門医らが、どのような患者をCKD患者と認定しているのか、即ちCKDをどのように定義しているかを2つの論文から復習し、CKDの診断法を再確認して頂きたい。

問題1の回答

1）論文「Rudinsky AJ., et al. *J Vet Intern Med*. (2018) 32: 1977–1982」	
論題	犬の CKD における生存時間に関与する因子
前向き試験（頭数）	2014 年 1 月～ 2015 年 7 月（27 頭）
CKD の診断	少なくとも 3 カ月の間に次に掲げる事項が 2 回認められた場合。 ① 腎臓以外の原因が存在しない多飲・多尿を示し、 ② 安定した窒素血症（血中 Cr 濃度≧ 1.4 mg/dl）と ③ 不適切な尿濃縮（尿比重 <1.030 ）が存在し、また③腎性蛋白尿（UPC>0.5）や ④ CKD を示す超音波検査所見（皮質髄質境界の消失、輪郭の不規則、腎の縮小など）が認められる患者